

福 議 委 号
令和2年12月21日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

経済福祉常任委員会
委員長 佐藤 孝男



所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、令和2年12月9日福島町議会定例会12月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第148条の規定により、下記のとおり報告する。

記

調査事件	11 岩部クルーズ運航事業について (その他所管に関する事項)
調査期間	令和2年12月18日
出席委員	委員長 佐藤 孝男 副委員長 藤山 大 委員 平沼 昌平 委員 小鹿 昭義 委員 平野 隆雄 委員 溝部 幸基
委員外議員	議員 花田 勇
出席説明員	町長 鳴海 清春 副町長 工藤 泰 総務課長 小鹿 一彦 企画課長 住吉 英之 産業課長 川合 力哉 産業課長補佐(商工観光) 石川 秀二
議会事務局職員	事務局長 阿部 憲一 係長 福井 理央 主査 中島 和俊

[委員会意見]

調査事件 11 岩部クルーズ運航事業について（その他所管に関する事項）

（令和2年12月18日調査）

国の地方創生推進交付金を活用し、平成30年度より事業実施している岩部クルーズ運航事業については、本委員会において、継続的に事業内容・実績等を調査してきた。

このたび、町より令和2年度の事業実施内容、令和3年度の事業継続の方向性が示され、関係資料に基づき調査したので、調査結果を次のとおり報告する。

【論点とした調査項目・意見】

1 観光施策としての岩部クルーズ事業について

現在の当町の観光施策は、岩部クルーズ事業を前面に押し出しているが、本来的には、従来から当町の観光を担ってきた横綱記念館・トンネル記念館を施設見学型観光、また、岩部クルーズを体験型観光と改めて位置付けし直し、町内全体が観光産業の波及的恩恵を享受できる施策展開をすべきと思慮する。

このため現在事業委託している（一社）福島町まちづくり工房の在り方や事業展開、観光協会等関連団体・地元企業の在り方、地場産品等の利活用について、次のとおり検討願いたい。

（1）福島町まちづくり工房の自主的事業展開について

まちづくり工房設立時の事業計画では、岩部クルーズ事業が工房の大きな柱と計画されていたが、事業実施の有利な財源確保のため事業主体を町、事業実施を工房とした経緯がある。工房の今後の自主的組織経営のためには、工房役員自体が、設立趣旨をしっかりと自覚し、組織体制（役員の役割・事務局体制確立等）や経営管理（財政の現状分析・見通し）について役員会や総会等で積極的に検討を加え認識を共有する必要がある、その上で町・観光協会等と連携強化を図るべきと思慮する。

（2）運航回数等の検討と乗船者の利便性確保について

1日3回の運航回数のうち、朝の第一便は、函館近郊の利用客の予約がなく運航回数が少ないとのことであるが、第一便の時間帯の方が凪ぎており、運航に適しているとのことであった。このため運航時間の調整・運航回数増等を再検討すべきと思慮する。

また、当事業は天候に左右されることから欠航決定時には、予約乗船者に対し前日中に電話連絡しているとのことであるが、岩部クルーズを広くPRする意味からも、町ホームページに予約者・運航状況を掲載すべきと思慮する。

（3）地元飲食店による食の提供について

今年の乗船者には、元気プロジェクトでアワビカレーを無料提供し好評を得たが、多くの利用者が町内での飲食を望んでいること、また、クルージング後には町内商店で地場産品を購入するなど岩部クルーズとの連動・連携の必要性・可能性が分かったとのことである。

町内での飲食については、今後検討を進める「新道の駅」をはじめ町内飲食店による地元食材の利活用拡大の取り組みが期待されるとともに、これに対する町の支援・誘導、参加意欲の醸成を強く望む。

2 総括的意見について

クルージング運航が天候等に左右され、現状の経営状況での自立は、非常に厳しいと分析されることから、一般財源による令和3年度岩部クルーズ運航事業については一定の理解をするが、運航回数増の可能性を探求し、従来同様、有利な財源確保の可能性について検討願いたい。

また、当初予算説明時には、出航判断のデータ分析を十分行ったうえでの積算根拠等を明確にするとともに、今後、事業全体が適切に俯瞰できる統計データ管理の再検討をすべきと思慮する。